

本研究室が目指しているもの

我が国は、国土の約7割が急峻な地形で占められており、また脆弱な地質も広く分布しています。さらに、地震や降水量が多いため、これまで数多くの尊い人命や財産が奪われるなどの地盤災害が多数発生してきました。

本研究室では、地盤災害の中でも特に斜面災害に着目し、斜面崩壊の発生メカニズムの解明と斜面災害の発生危険度評価手法の構築に関する様々な研究を行っています。

我々の研究成果が、斜面災害による人的・物的被害を軽減し、安全で安心できる社会の実現に貢献することを目指しています。

斜面災害の発生危険度評価手法の構築 に関する研究

神戸市立工業高等専門学校
都市工学科
准教授 鳥居宣之

Copyright© N.T.

研究背景と目的

斜面災害による被害の軽減を図るためには、斜面崩壊の発生場所、時間、規模・被災範囲を精度良く予測（評価）し、住民の警戒避難につなげることが求められています。

本研究テーマでは、斜面崩壊の発生危険度評価手法の構築ならびにその評価精度向上に関する研究を行っています。

研究テーマ

- 豪雨を起因とする斜面崩壊の発生危険度評価システムの構築
- 表土層内の不飽和浸透過程を簡略化した地下水位算定モデルの提案
- 地理空間情報を活用した潜在崩土層深分布推定手法に関する研究
- 斜面崩壊ならびに崩土の移動・堆積過程シミュレーション手法の構築
- リスクコミュニケーションツールとしてのハザード（リスク）マップの活用方法に関する研究